

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700066		
法人名	社会福祉法人緑ヶ丘学園		
事業所名	認知症対応型グループホーム 稚内緑寿苑 (ユニット1)		
所在地	稚内市声間5丁目27番20号		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0196700066&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家事等は、利用者ができるだけ自立した生活ができるように支援しています。
 ・家庭的な温もりのある空間の中で、ご利用者お一人おひとりの尊厳が守られ、楽しい人生を営むことができるよう創意工夫したサービスを提供させていただきます。
 ・ご利用者の生活を大切にするため、お部屋には、トイレ、洗面所が完備されていますので、個人のプライバシーに配慮されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<事故を未然に防ぐ取り組み>
 ユニットを増設し、2月より新規利用者の入居や新人職員の採用があり、ヒヤリ・ハットの活用で事故を未然に防ぐ取り組みや職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、段階に応じて法人内外の研修を受ける機会の確保や日常業務を通じて働きながらOJTを進めリスク管理に努めている。

<職員を育てる取り組み>
 新人職員採用研修の実施や身体拘束廃止、高齢者虐待防止、成年後見制度等について母体社会福祉法人の研修に参加し、段階に応じた研修の機会を確保している。また、日常業務や毎月のミーティングでケアの実際の場面について話し合い、質の向上に活かしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「すべての人たちの人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を営むことができるよう多様で良質な福祉サービスを創意工夫し、総合的に提供すること。」を全職員が共有して、介護の実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、法人内外の研修会を通じて話し合い職員間で共有している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方から定期的にお花をいただいたり、近隣の小学校の運動会に見学しに行ったり、また、図書館の移動巡回車が定期的に来て、地域とのつながりを深めている。	地元小学校の運動会見物や生徒の来訪、緊急時の連絡網を町内や近隣住民に広げる取り組みや実習生の受け入れ、地域のお祭り参加を通じて交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設実習の受け入れ等、事業所の力を活かした地域貢献が出来るよう努めている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者状況や通院状況、外部評価の結果等のサービスへの報告を行い、運営推進委員の方からの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に開催する運営推進会議では、利用状況や通院等について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者が委員となって地域ケア会議に出席しているので連絡を受けたり、運営推進委員に市担当者がなっているので、サービスの取り組み状況を伝えたりし、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市が参加する地域ケア会議で情報交換を行う等日常業務を通じて協力関係を築くよう取り組んでいる。また、市担当者等が運営推進会議に参加し意見交換をしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部から講師を招き身体拘束の研修を全ての職員が受講し、身体拘束に該当する具体的な行為の例を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	代表者および全ての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに努めている。また、外部から講師を招へいし、身体拘束廃止や高齢者虐待防止の研修を実施している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部から講師を招き虐待の研修を全ての職員が受講し、高齢者虐待防止法について学ぶ機会をもち、虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員採用研修において北海道地域福祉生活支援センターで発行している「日常生活自立支援事業、成年後見制度」のパンフレットを配布して説明したり、運営推進会議に市担当者が成年後見制度について講話し、活用できるよう支援している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書、重要事項説明書を書面、口頭で説明し、疑問点や把握しにくいこと等の質問を聞き対応している。また、利用者の状態変化により、契約解除になる場合も説明している。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や要望は、ユニット毎に話し合いを行ったり、運営推進会議に利用者、家族が参加し、意見等を運営に反映させている。	利用者及び家族、来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように運営推進会議や来訪時に話し合う機会を設け、そこでの意見等を運営に反映している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人常務理事や代表者、管理者が部署ミーティングに参加し、運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	部署ミーティングに法人理事が参加して、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、そこでの意見を運営に反映できるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	課題設定・自己管理シートを職員に提出してもらい、個々の努力や勤務状況を把握したり、契約職員の正職員の採用について委員会を開催し、各自が向上心をもって働ける職場環境づくりに努めている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を実務経験に応じて、研修させたり、介護福祉士受験者の協力をしている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会(道北ブロック)主催の研修会や市の地域ケア会議に参加し、サービスの質を向上させていくよう取り組みをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学や事前面談等で本人の思いや要望等をよく聴くようにし、信頼関係を築けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前や開始時、家族等が困っていることや要望等を十分聞き入れ、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人や家族等に現在の状況をよく聴き、担当のケアマネージャー等ともよく相談するようアドバイスしたり、必要なサービス機関につなげるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と家事等協働で行っている。また利用者の得意なことで力を発揮してもらい、暮らしを共にする関係づくりが出来るよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会時や電話で利用者の状況を報告したり、家族と敬老会や食事会を開催したりし、共に本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している美容室に行き続けるよう支援したり、電話での連絡を取り持ったりしている。また、また馴染みの場所との関係が途切れないよう家族の協力を得て支援している。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や美容室への訪問や墓参り、日帰りや外泊等で関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者の仲の善し悪しに配慮し、食事作りや洗濯量等の調整役になるよう努めている。また個別に相談にのったりし、利用者同士の関係が上手にいくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても利用者に面会にいたり、関係を断ち切らない関係性を大切にしている。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の利用者とかかわりの中で暮らし方の意向を把握し、本人本位に支援するよう努めています。また、困難な場合は、家族からの意見を参考にしたり、言葉や表情、行動から汲み取るよう努めています。	一人ひとりの意向を把握し、畑での野菜づくりや洗濯機に操作手順を掲示し、本人が洗濯できるように工夫したり、調理や味付け、配膳や後片付け等職員と一緒に出来るように支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまで利用していたサービスの担当者に情報を聞いたり、利用者及び家族に生活歴や意向を聞き、サービスの提供に活かすよう努めている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し支援している。また利用者の有する力を生かし、日々の生活の中に取り入れるよう努めている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントは、本人、家族、新しい入居者の場合は、担当のケアマネージャーから情報を聞きとり、現状に即した実践的な介護計画となるよう努めている。また、モニタリングは、日々の個別記録や職員に意見を聞き、利用者の状態変化に応じて見直しを行い作成している。	センター方式を活用し、本人、家族と話し合い、それぞれの意見を介護計画に反映している。また、モニタリングを通じて職員のアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分・排泄・食事等の日常生活の状況や受診状況を個別記録に記入して、部署ミーティングで情報を共有し、個別記録等を基に介護計画の見直しに活かしている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院の支援や緊急な外出・外泊の支援に柔軟に対応するよう支援し、サービスの多機能化に取り組んでいる。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館を定期的に巡回してもらい、利用者が本を借りたり、運営推進会議に消防署の職員が出席して意見を聞いたりし、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診状況を聞き、本人及び家族等の納得したかかりつけ医に適切な医療を受けられるよう支援している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、看護師が訪問して適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日朝30分から1時間程看護師が来苑し、管理者や介護職員は、入居者の健康管理や適切な受診等を相談し、協働して支援している。また看護師が不在の時間、体調不良の利用者がでた場合は、電話で相談し対応している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、治療処置等で本人の心身負担が軽減され、出来るだけ早期に退院できるよう病院関係者と相談し、対応している。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営方針として重度化した場合等、契約時に本人・家族等に説明し同意を得て、方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、全ての職員が、普通救命講習を受講し、心肺蘇生術等の研修を受けて、実践力を身に付けている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等、利用者とともに、また消防設備の点検を年2回行っている。グループホームと法人、近隣の方が連携し、火災等に備えて緊急連絡網を整備している。	スプリンクラーや通報装置等の設備が完備している。また、消防署の協力を得て、避難訓練を実施。また、普通救命救命の講習を受講し、緊急時に備えた実践力をつける取り組みも行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の尊厳が守られるよう留意し、言葉使いや個人情報の漏洩にも気をつけて対応している。	一人ひとりの尊厳を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が好んでいる飲食物の希望を職員や家族が対応したり、誕生会は本人の希望を聞き、利用者が自己決定できる場面をつくるよう努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事、入浴等、利用者の一人ひとりのペースに合わせた個別ケアを行い支援をしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会やひな祭りに職員が利用者の要望に応じて化粧の援助を行ったり、本人の望む美容室、床屋へ行けるよう取り組んでいる。また衣類の選択は、本人の希望を聞き、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理、後片付けは、利用者と職員が一緒にに行い、食事職員と利用者と同じ食卓で食べ、楽しい雰囲気づくりができるよう心がけている。またケーキバイキングやバーベキュー、出前等取り入れている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理や味付け、食事の準備や片付けをしている。また、管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスや摂取カロリーも把握している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、栄養バランスに配慮し、必要時アドバイスをもらっている。本人の好き嫌いを入居前に把握したり、食事・水分摂取量を毎日記録し、1日に必要な栄養・水分を摂取できるよう職員が情報を共有している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせた歯磨きの支援をしている。就寝前入れ歯の管理が困難な利用者は、職員がお預かりしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、オムツの使用を減らすよう尿漏れパンツを使用したり、排泄誘導してできる限りトイレでの排泄を行うよう支援している。またトイレに行きやすいよう、各居室、お風呂場にトイレを設置している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を毎日飲用したり、繊維質の多い食材を提供するようにしている。また家事等で体を動かし、自然排便が出来るよう取り組み、便秘がちな利用者に対しては、医師と相談して排便を促す薬の服用や下剤を調整し、薬を出来るだけ習慣化しないように取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ入浴は、曜日や時間帯など本人の希望にそうよう努めている。また、入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応を工夫し、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	拒否の強い利用者には、一人ひとりに沿った支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて本人が希望する曜日や時間帯に入浴できるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調・睡眠状況を把握し、安心して休息がとれるよう環境の工夫をしたり、暖かい飲み物の提供を行ったりしている。日中は、家事等をつうじ、活動的に生活できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをケース毎に整理し、薬のはたらきや副作用、用法や容量を把握し、利用者の能力に応じて服薬介助し、身体状況の変化を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、家事や飲食物の嗜好品の援助、移動図書館で定期的に本を借りる等、利用者により役割や楽しみごと、生活にはりをもっていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>通院等の帰りに買い物によったり、普段行けないような場所へも家族の協力を得ながら支援している。</p>	<p>通院帰りの買い物や散歩、レストランなどへの外食や野外での焼き肉、お花見や宗谷岬へのドライブ等戸外に出かける支援をしている。</p>	<p>今後は、一人ひとりの希望や力に応じて、戸外に出かける機会の確保を職員間で検討しているので、その実践に期待します。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の金銭管理能力により支援し、職員が家族より金銭管理を依頼されている方の外出時のお金等は、本人が支払っていただけるようお金を手渡す等の工夫をしている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を取り次ぐ場合は、プライバシーに配慮し、部屋に電話をお持ちしたり、年賀状の投函を支援している。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>茶の間の温度・湿度に配慮し、1日(朝・昼・夕)3回温度、湿度を記入している。また、玄関に花を飾ったり、居間等に植木や花を置いたり、5月人形やクリスマスリース、繭玉等を飾り付けし、季節感を感じられるようしつらえを工夫している。</p>	<p>採光が取り入れられて共用空間は明るく、椅子やソファの配置で一人になったり、談笑できるスペースが確保されて居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ベランダに椅子を置いたり茶の間のソファで気の合った利用者同士が団欒出来るよう環境づくりをし、くつろげるよう工夫をしている。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、本人の使い慣れた家具等が持ち込まれ、家族の写真が飾られたりしている。また居室は、本人や家族と相談しながら居心地良い場となるよう配慮している。</p>	<p>居室は広く、周辺の景色が眺められると共に本人や家族と相談しながら、仏壇や使い慣れた家具、寝具や家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>洗濯機そばに操作手順をわかりやすく書いたり、新聞受けから利用者自ら個別に持っているよう工夫したり、小さなことでもできることやわかることを引き出し、自立した生活ができるよう努め支援している。</p>			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700066		
法人名	社会福祉法人緑ヶ丘学園		
事業所名	認知症対応型グループホーム 稚内緑寿苑 (ユニット2)		
所在地	稚内市声間5丁目27番20号		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家事等は、利用者ができるだけ自立した生活ができるように支援しています。
 ・家庭的な温もりのある空間の中で、ご利用者お一人おひとりの尊厳が守られ、楽しい人生を営むことができるよう創意工夫したサービスを提供させていただきます。
 ・ご利用者の生活を大切にするため、お部屋には、トイレ、洗面所が完備されていますので、個人のプライバシーに配慮されています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0196700066&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年11月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「すべての人たちの人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を営むことができるよう多様で良質な福祉サービスを創意工夫し、総合的に提供すること。」を全職員が共有して、介護の実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方から定期的にお花をいただいたり、近隣の小学校の運動会に見学しに行ったりし、また、図書館の移動巡回車が定期的にくて、地域とのつながりを深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設実習の受け入れ等、事業所の力を活かした地域貢献が出来るよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者状況や通院状況、外部評価の結果等のサービスへの報告を行い、運営推進委員の方からの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者が委員となって地域ケア会議に出席しているので連絡を受けたり、運営推進委員に市担当者がなっているので、サービスの取り組み状況を伝えたりし、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部から講師を招き身体拘束の研修を全ての職員が受講し、身体拘束に該当する具体的な行為の例を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部から講師を招き虐待の研修を全ての職員が受講し、高齢者虐待防止法について学ぶ機会をもち、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員採用研修において北海道地域福祉生活支援センターで発行している「日常生活自立支援事業、成年後見制度」のパンフレットを配布して説明したり、運営推進会議に市担当者が成年後見制度について講話し、活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書、重要事項説明書を書面、口頭で説明し、疑問点や把握しにくいこと等の質問を聞き対応している。また、利用者の状態変化により、契約解除になる場合も説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や要望は、ユニット毎に話し合いを行ったり、運営推進会議に利用者、家族が参加し、意見等を運営に反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人常務理事や代表者、管理者が部署ミーティングに参加し、運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	課題設定・自己管理シートを職員に提出してもらい、個々の努力や勤務状況を把握したり、契約職員の正職員の採用について委員会を開催し、各自が向上心をもって働ける職場環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を実務経験に応じて、研修させたり、介護福祉士受験者の協力をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協会(道北ブロック)主催の研修会や市の地域ケア会議に参加し、サービスの質を向上させていくよう取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の施設見学や事前面談等で本人の思いや要望等をよく聴くようにし、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用開始前、開始時、家族等が困っていることや要望等を十分聞き入れ、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービスの利用を開始する段階で、本人や家族等に現在の状況をよく聴き、担当のケアマネジャー等よく相談するようアドバイスしたり、必要なサービス機関につなげるように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事等の共同作業の中で、入居者個々の出来る事を見極め、役割を持っていただく事により暮らしを共にする関係作りが出来るよう努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は常に、入居者のご家族と連絡を取りながら、状況等によりご家族の協力を得ながら、支援に努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族の協力のもと、馴染みの美容室にいけるよう支援したり、友人への手紙の投函や電話を自由にかけられるよう支援に努めています。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係に配慮し、食事の席を工夫したり、家事の分担で個人を尊重しながら、仲間意識が持てるよう支援に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ユニットが開苑し8ヶ月の為事例はありませんが、入居待ちの方々には必要に応じて、状況を報告したり連絡に努めています。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人ひとりの暮らしの実現の為、本人の希望や意向の把握に努めています。			
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接において、本人や家族、サービス担当者からの情報をもらい把握に努めています。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい一日を過ごせるように、自己決定を大切に、記録を充実させ現状の把握に努めています。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の抱えている課題については、本人の意向は勿論、家族、職員で話し合い、介護計画に結びつくよう努めている。また定期的にモニタリングで、ケアの見直しを行っています。			
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の心身の状況や生活の様子を記録し、職員で共有する事で実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に状況に応じ、通院の支援や緊急の外泊、外出にも柔軟に対応している。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の巡回や、歯科医師による歯磨きの実践講習等を生活に活かしている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診状況を把握し、本人及び家族の納得の得られたかかりつけ医に医療を受けられるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日朝30分から1時間程看護師が来苑し、管理者や介護職員は、入居者の健康管理や適切な受診等相談し、協働して支援している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、治療処置等で本人の心身負担が軽減され、出来るだけ早期に退院できるよう病院関係者と相談し、対応している。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営方針として重度化した場合等、契約時に本人・家族等に説明し同意を得て、方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。			
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、全ての職員が、普通救命講習を受け、救急手当や蘇生術の研修を受けて、実践力を身に付けている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等、利用者とともに、また消防設備の点検を年2回行なっている。グループホームと法人、近隣の方が連携し、火災等に備え、緊急連絡網を整備している。			
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の尊厳が守られるよう留意し、言葉使いや対応に気をつけている。記録物は、書棚に入れ個人情報の取り扱いに注意している。			
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時間や就寝時間の自由や、飲物の選択、テレビ番組の選択等、本人の自己決定の場を出来るだけ多く持てるよう支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時に畑に出られる支援、また天候を見ての散歩など希望に添えるよう支援しています。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容室や理容室、馴染みの美容室の支援や行事の時の身だしなみとして、お化粧の支援も行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に調理や盛り付けをし、生活の一部として楽しめるよう支援しています。また、器の工夫や誕生日の献立にも工夫をしています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立のもと、摂取量や水分に注意しながら、また水分の取れない入居者には飲物を工夫し提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に合わせた歯磨きを、毎食後支援をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすよう、時間をみでの誘導の支援やパターンを把握したことにより、紙パンツから布パンツに戻す事が可能になっています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を毎日飲用・飲食したり、飲み物や繊維質の多い食材を提供するようにしている。また家事等で体を動かし、自然排便が出来るよう取り組み、便秘がちな利用者に対しては、医師と相談して調整し、下剤を習慣化しないように取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に添った支援が出来るよう、努めています。また、仲のよい入居者は同じ曜日になるよう配慮しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調・睡眠状況を把握し、安心して眠れるよう傾聴したり、安心出来るよう言葉掛けの工夫や暖かい飲み物の提供を行ったりしている。日中は、家事等をつうじ、活動的に生活できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の情報を綴り、薬の働きや用法用量を理解し、共有しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、家事や畑仕事の支援、また個々の持つ力に合わせた役割を持てるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>1人ひとりの希望に添った美容室、床屋の支援。また家族との外出や、通院時の買い物の支援も行っています。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の金銭管理能力により支援し、職員が家族より金銭管理を依頼されている方の外出時のお金等は、本人が支払っていただけのお金を手渡す等の工夫をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を使える支援、手紙の投函の支援も行っています。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度、湿度の管理は勿論、季節の風物を飾るなどの工夫に努めています。(七夕飾り 十五夜飾り)</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下やベランダに椅子を置いたり、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士でくつろげるような工夫をしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時、本人の使い慣れた家具等が持ち込まれ、家族の写真が飾られたりしている。また居室は、本人や家族と相談しながら居心地良い場となるよう配慮している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>苑内の手摺の工夫や、居室内のゴミ箱の置き場所、お茶やコーヒーを入れることの出来る入居者には、安全の工夫に努めています。</p>		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出することが少なかった。	外出する機会が、多くなる。	外出する際は、数班に分ける等して安全性に配慮し、外出できる機会を増やすよう取り組む。	1年
2	51	手紙やはがきのやり取りが少なかった。	手紙やはがきのやりとりが増える。	行事等で撮影した写真をそえる等、手紙のやりとりをする機会を多くし、遠方の家族とも関係性を継続する機会を増やすよう支援する。	1年
3	19	開設後、3年が経過し利用者への家族の面会が少なくなっている。	利用者への家族の面会が多くなる。	行事等増やし、家族の参加を呼びかけたり、家族との協力関係を深めるようコミュニケーションを多く図っていく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。